



## 【特別支援学校のセンター的機能】

### ～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者に来校していただいたりして、発達の気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

### 7月30日現在の相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等 学校	特別支援 学校	その他	計
件数	100件	110件	17件	9件	0件	5件	241件

(その他は関係機関からの相談)

その他 8月6日 伊勢崎市内の中学校にて校内研修の講師  
9月14日 前橋市内の小学校の校内研修にて講演予定

専門アドバイザーの仕事を紹介します。



お子さんに必要な支援は幼稚園・保育園から小学校、中学校、高等学校、大学に引き継がれていく必要があります。

ある幼稚園の年長児の先生からの相談です。

対象の男の子(A君)は外遊びの好きな元気なお子さんです。友だちもたくさんいて、学級での活動も積極的に行います。でも、整理整頓が苦手です。制作の時間に「クレヨン持ってきて」と言われると、一番先にロッカーに取りに行きます。ロッカーの中の道具箱に手を伸ばし、画用紙や粘土板をかき分け、マジックの箱の下からやっとクレヨンの黄色い箱を見つけました。そして、嬉しさのあまり箱を勢いよく取り出すと、道具箱ごと床に落としてしまいました。制作に意欲を燃やしていたA君は、片付ける間に説明が始まってしまふことに怒ってしまい、教師に片付けを手伝ってもらった後、悔しい気持ちで制作をしていました。

こんな失敗をなくすために、どこに何を置いたら良いかの写真をA君のロッカーに貼ってもらいました。すると、A君はその写真を見ながら、物をロッカーにしまい、以前のよ

うに、必要な物を取り出すときに他のものを落とすことはなくなりました。

写真を貼ったのがその年の5月、その後、訪問したのが、卒園式の練習が始まった2月でした。写真を貼って以降、A君は最初のころは写真を見て物をしまっていました。最近では写真を見る様子もなくなりました。数ヶ月後には小学校入学なので、担任の先生は小学校に行ったら写真がなくても済むようにと写真を外しました。すると、A君は「僕は写真が貼ってあると、分からなくなったときにそれを見れば良いから、安心なんだ。貼っておいて」と訴えたそうです。

担任の先生からは、「小学校に入学するのに写真を貼っておいてよいのか」という相談でした。もちろん、貼ってもらいました。A君はどこに何を置けば良いか、どうすれば使いやすいかを考える力が苦手です。そして、それは努力すれば直るものではなく、うまく付き合っていく特性になります。でも、適切な支援があれば心配ないのです。

普通はお子さんに対する支援方法は教師や保護者が、次の担任に伝えていくものですが、今回の場合はA君自身が自分の弱点を知っているだけでなく、自分はどうすればよいかを知ること、支援方法をつなげることができました。

お子さんが成長するに従って、「こうすれば良いんだ」という方法を子ども自身が知っていることは大切です。教師や保護者がいくらお子さんに合った支援をしても、お子さん自身が知らなくては自信を持った生活ができないからです。

ある国立大学の先生から聞きました。自分の弱みを知って、その解決法がわかっている生徒は自分から「講義を聴くだけでは話が理解できないので、紙に書いた資料をください」「書くのが難しいのですが、書いてあるものは読めるので、黒板の写真を取っても良いですか」と依頼できるそうです。

人生において、いかに自分らしく生きるかを考えたときに、自分自身が失敗しない方法を知っていることは強みですね。

今年度も理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の同行派遣が始まりました。粗大運動・微細運動・姿勢・力のコントロール・言葉の不明瞭・吃音・置換等気になることがありましたら、障害の有無に関係なくお気軽にご相談ください。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

群馬県立しろうがね特別支援学校

専門アドバイザー

電話 027-268-6111

FAX 027-268-6113